

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成17年12月22日(2005.12.22)

【公表番号】特表2004-526937(P2004-526937A)

【公表日】平成16年9月2日(2004.9.2)

【年通号数】公開・登録公報2004-034

【出願番号】特願2003-500495(P2003-500495)

【国際特許分類第7版】

F 4 1 A 21/12

【F I】

F 4 1 A 21/12

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月4日(2004.6.4)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

火器に対する銃身アセンブリにおいて、

銃口を有する銃身と、

前記銃身内に軸方向に積重ねられた複数個の管状弾と、

管状弾の間に介在し、圧力に対応して管状弾の間の作動的な銃身閉鎖を達成する閉鎖手段と、及び

銃身の銃口を通して隣接する前方の弾丸と関連する閉鎖手段とを発射するため点火可能な各弾内の選択的に点火可能な発射装薬とを備える、銃身アセンブリ。

【請求項2】

請求項1に記載の銃身アセンブリにおいて、各管状弾は開放端を持つ管状本体部をもち、閉鎖部材は隣接する管状本体部の間に挟まれた閉鎖壁部材である、銃身アセンブリ。

【請求項3】

請求項2に記載の銃身アセンブリにおいて、各閉鎖壁部材は延在して銃身の銃腔に接触して銃身に作動的に封止係合する、銃身アセンブリ。

【請求項4】

請求項2に記載の銃身アセンブリにおいて、閉鎖壁部材は隣接する管状弾の端面間に挟まれており、閉鎖壁部材の周辺部は、端面から加わる軸方向の圧縮によって隣接する管状弾の間で外向きに拡がって銃身に作動的に封止係合する、銃身アセンブリ。

【請求項5】

請求項2に記載の銃身アセンブリにおいて、閉鎖壁部材は隣接する管状弾の端面と封止係合を形成する、銃身アセンブリ。

【請求項6】

請求項4に記載の銃身アセンブリにおいて、隣接する管状弾の端面は、挟まれた閉鎖壁部材の周辺部で夫々の相補的なくさび面に係合するように形成されている、銃身アセンブリ。

【請求項7】

請求項2に記載の銃身アセンブリにおいて、管状弾は相互に突き合わせとなる又は密に隣接する相補的な外側端壁部を持ち、閉鎖壁部材は内側及び外側の壁部間に挟まれている、銃身アセンブリ。

## 【請求項 8】

請求項 7 に記載の銃身アセンブリにおいて、隣接する管状弾の端面は、半径方向及びノ又は銃身軸の斜め方向に延在している、銃身アセンブリ。

## 【請求項 9】

請求項 7 に記載の銃身アセンブリにおいて、前記外側端壁部と前記内側端壁部は、隣接する弾の間に入れ子式係合をもたらすように相互に軸方向に離隔している、銃身アセンブリ。

## 【請求項 10】

請求項 9 に記載の銃身アセンブリにおいて、隣接する弾の入れ子部分は、外向きに拡がって隣接する入れ子部分又は銃身に封止係合できる薄い壁部分を有している、銃身アセンブリ。

## 【請求項 11】

請求項 2 に記載の銃身アセンブリにおいて、挟まれた各封鎖壁部材はその前面に対する発射装薬の圧力に反応して、隣接する後方の弾に内蔵された装薬の噴き出し点火に対する封止となる、銃身アセンブリ。

## 【請求項 12】

請求項 1 に記載の銃身アセンブリにおいて、選択的に点火可能な各発射装薬は、弾の周りに延在し、銃身を通して突出する夫々の電気コンタクトに接触する一対の離間した環状コンタクトに接続する電気作動の雷管を有している、銃身アセンブリ。

## 【請求項 13】

請求項 1 に記載の銃身アセンブリにおいて、環状弾は、管状本体に対し夫々の封鎖を収束して形成する外向きに収束する壁セグメントをもつ管状本体を有している、銃身アセンブリ。

## 【請求項 14】

請求項 1 に記載の銃身アセンブリにおいて、銃身内の先頭の弾以外の各弾は、発射装薬を有し、先頭の弾は次の弾の発射装薬が点火した時に銃身から発射される、銃身アセンブリ。

## 【請求項 15】

請求項 14 に記載の銃身アセンブリにおいて、発射装薬の点火による圧力により、後方の弾の前方端にある壁セグメントが開放される、銃身アセンブリ。

## 【請求項 16】

火器又は弾薬の銃身アセンブリから発射する弾において、該弾は、  
前記銃身アセンブリの銃身に装填された開放端付き管状本体と、  
前記管状本体と隣接する弾の間に介在配置され、圧力に反応して弾の間に閉鎖を形成する閉鎖部材と、及び  
隣接する前方の弾を銃身の銃口を通して発射するため管状本体内に選択的に点火可能な発射装薬とを備える、弾。

## 【請求項 17】

請求項 16 に記載の弾において、閉鎖部材は隣接する弾の端面の間に挟まれ、壁部材の周辺部は、使用時に端面に加わる軸方向圧力によって隣接する弾の間で外向きに拡がって銃身に作動的に封止係合する、弾。

## 【請求項 18】

請求項 17 に記載の弾において、隣接する管状弾の端面は、挟まれた閉鎖部材の周辺部で夫々の相補的なくさび面に係合するように形成されている、弾。

## 【請求項 19】

請求項 1 に記載の弾において、管状本体は隣接する弾と入れ子式係合するような端面をもっている、弾。

## 【請求項 20】

請求項 16 に記載の弾において、封鎖壁部材は、銃身に装填された時隣接する弾に設けら

れた閉鎖壁部材に突き合わせになる、弾。

【請求項 2 1】

使用時に火器の銃身内に積み重ねた弾丸の部分を形成する管状本体と、

本体の後方端にあり、圧力に対応して積み重ね内の隣接する後方の弾丸又は銃身と封止係合を形成する閉鎖と、

本体内にあり、隣接する前方の弾と夫々の閉鎖を銃身から発射するため点火可能な発射薬とを備えた、火器用の弾。

【請求項 2 2】

請求項 2 1 に記載の弾において、使用時に閉鎖は夫々の発射装薬の点火によって発生する圧力に反応する、火器用の弾。

【請求項 2 3】

請求項 2 1 に記載の弾において、閉鎖は反応して後方の弾丸の管状本体に封止を形成する、火器用の弾。

【請求項 2 4】

請求項 2 1 に記載の弾において、閉鎖は反応して銃身に封止を形成する、火器用の弾。

【請求項 2 5】

軸方向に積重ねられた管状弾を有する銃身と、

管状本体、本体の後方端にある閉鎖及び本体内の発射装薬を有するほぼ全ての弾とを備え、

各封鎖は夫々の発射装薬の点火に反応して管状本体に封止を形成する、武器用の銃身アセンブリ。

【請求項 2 6】

請求項 2 5 に記載の銃身アセンブリにおいて、積み重ね内の前方の弾は発射装薬を内蔵していない、銃身アセンブリ。

【請求項 2 7】

請求項 2 5 に記載の銃身アセンブリにおいて、管状本体は一つ以上の相補的な面で封鎖に係合する、銃身アセンブリ。

【請求項 2 8】

請求項 2 5 に記載の銃身アセンブリにおいて、各封鎖は夫々の発射装薬の点火に反応して銃身に封止を形成する、銃身アセンブリ。

【請求項 2 9】

請求項 2 5 に記載の銃身アセンブリにおいて、各管状弾は、開放端付き管状本体を有し、閉鎖手段は隣接する弾の開放端の間の壁に形成されている、銃身アセンブリ。